

スリランカ「津波の女性被害者の自立と開発プログラム」(3年度)



2008年1月から開始した3年目の新規対象地ゴダガマ北地区「Kadirgarmer Housing」村。同村に住む92世帯の60%が女性世帯で、津波以前は漁業を営んでいた。「津波によって私たちはすべての資産を失いました。ウィルポタがこの村に来てくれ、私たちは『ソサエティ』（グループ）を設立し、私たちに何ができるかということが分かり、成果を残すことができました。過去6ヶ月間に私たちが行ってきた活動についてご説明します。」と語り始めたリーダーのセイナーニさん



現在のビジネスの種類について、大和証券グループ本社の金田氏の質問に手をあげて答える女性たち。縫製7人、レース編み1人、日用雑貨店3人、印刷1人、宝飾品販売1人、魚介類販売5人、子どもの帽子編み1人であった



ILOの教材を使い行ったビジネストレーニング2種(GYB、SYB)の修了証書授与のようです。本年度後期にビジネス改善トレーニング「IYB」を行う予定。IYBでは、マーケット戦略、インプット(投資、投入)とアウトプット(売り上げ、成果)の比較を行う



このグループで特定された15の問題に「Pair-wise ranking」という手法を用いて優先順位が付けられた： 資本がない、 技術的ノウハウがない、 女性の生計手段がない



このグループでは各人 20 ルピーの貯金を開始した。メンバーへの資本金 (5,448 ルピー) のうち、各自 2,500 ルピーをグループ・ビジネス (冠婚葬祭時の貸し出し) のため支払い、その合計で 65,000 ルピーをイス (45 脚)、集会場建設 (写真) に充てた



3 年目の新規体調地「China Housing」村での会合前の伝統舞踊。同村は沿岸部に住んでいた住民が移住し、2 年半前に新たに建設された。同村の世帯数は 146 世帯で、うち 75 人が上半期でメンバーとなった。下半期は 25 人が加わる予定



「津波」をテーマに描かれた子どもたちの絵からは、津波発生時の凄まじさがうかがえる



メンバーが始めたビジネスの製品 (上)。縫製、菓子づくり、ココナツ殻加工、ハンドバッグ、レース編みなど



縫製ビジネスを行っているメンバーは、刺繍入りの枕カバーなどをつくり、枕カバーは 2 枚 1 セット (刺繍入り) 300 ルピーで販売している





2年目の対象地 **Sirikadurawatte** 村の受益者によるコヤ・ロープづくりのようす。3人1組で行う。小1セット2ルピー、大5ルピーで販売する



夫と日用雑貨店を営むメンバー（右）。電話サービス（写真手前）が軌道にのっている



子どもが8人おり、日雇い労働をしている夫の収入は不安定のため、薪（シナモンの木）販売をはじめた女性



他のメンバーとともにドアマットと洋服製造に取り組んでいる



初年度に設立された「**Samagi Kantha Samithiya**」グループはメンバー数145人となり、蓄積したノウハウを他のグループに伝えている。毎月1回会合を開催し、意見交換会とともに貯蓄額、ローン返済額の集金、そして融資額の分配が行われている（下）。同グループの基金額合計は、60万6,530ルピー（約60万円）

